

日本社会福祉学会

学会ニュース No. 25

2000年10月10日

ご挨拶

「新しい社会福祉の知と実践を求めて」

2000年（第48回）大会への

ご参加を歓迎いたします

日本社会福祉学会2000年大会
大会実行委員長 田端 光美

2000年、ミレニアムの年明けから今はもう、カウントダウンで21世紀への暦をめくる日々となりました。すでにご案内しましたように、日本社会福祉学会2000年（第48回）大会は11月3日・4日の両日、日本女子大学西生田キャンパスで開催されます。日本女子大学は2001年に創立100周年を迎えますが、社会福祉学科は1921年9月26日、日本最初の社会事業学部として創設されました。1954年には社会福祉学会設立にも関わり、今回、20世紀から21世紀への架橋となる2000年大会を本学で開催させていただくことに、たいへん意義深く感じております。

今年度も会員皆様のご協力により、多数の自由研究発表と自主企画シンポジウムをエントリーしていただきました。なかでもポスター発表が倍増し、これにも司会者をお願いして発表効果を高め、討議の機会となるよう、本学会としては初めての方法をとりいれました。

大会テーマ「新しい社会福祉の知と実践を求めて」は、社会福祉の今日的状況や関連領域の研究動向などをから、20世紀の社会福祉を問い、21世紀の課題を探ることをねらいに設定したものです。大会シンポジウムの充実のため、会員シンポジストの方には一回目は5時間にわたる意見交換を、二回目は暑い八月のさなかに論点について話しあっていただきました。昨年の課題を受け継ぐ討議になることを願います。

今年度の大会記念講演は、免疫学者、生命学者として国際的に著名な多田富雄氏に「生命・個人・社会—生命科学から21世紀を展望する—」というテーマで、学問分野の狭い枠を越えた視点からご講演いただき、それに対する社会福祉からの対話を一番ヶ瀬康子会員をお願い致しました。会員皆様の研究に新しい視点となることを期待しています。なお、記念講演につきましては学会理事会にはかり、日本女子大学学術研究交流事業との共催とし、地域住民に開放する機会としましたので、よろしくお願い申し上げます。



本大会から理事会の大会運営改善方針により、発表手続きその他を変更しましたので、ご迷惑をおかけしたこともあるかと存じております。さらに、大会当日は西生田キャンパスは施設が手狭なこともあり、また環境保護を主旨として簡素化に努めていますので、ご不便な事もあるかと懸念していますが、なにとぞご理解くださいますようお願いする次第です。

樹々が彩りはじめる文化の日、多くの会員がご参集下さることを学科スタッフ、学生ともに心からお待ちしております。



日本社会福祉学会 第1回理事会報告

2000年7月9日
日本子ども家庭総合研究所

出席者：理事13名、監事1名（別紙出欠表参照）
オブザーバー出席；

秋元 樹（第48回大会事務局長）
川添雅由（第49回大会実行委員長）
保良昌徳（〃 大会事務局長）
上地武昭（〃 大会事務局次長）

高橋総務担当理事が議長となり、第1回理事会が開催された。冒頭で大橋謙策会長が日本学術会議会員候補に推薦されたことが報告された。

大橋謙策会長の挨拶の後審議に入った。

審 議

第1号議案 1999年度事業報告・決算・監査報告について

- ・1999年度事業（全国大会、理事会・運営委員会、機関紙・学会ニュースの発行、他団体との連携、その他活動）について高橋理事から報告があり承認された。次に、1999年度会計の決算について田端理事から説明があり承認された。
- ・佐藤監事から監査報告があり承認された。

第2号議案 2000年度会計補正予算案について

- ・2000年度会計補正予算案について田端理事から説明があり承認された。

第3号議案 2001年度事業計画案・予算案について

- ・2001年度事業計画が高橋理事から説明があり承認された。2001年度予算案について、田端理事から予算編成方針と予算案について説明があり承認された。

第4号議案 第48回大会（日本女子大）について

- ・多田富雄氏の大会記念講演を地域住民にも開放する案について意見を求められた。その際には、日本女子大学との「共催」とし、大学の「学術交流研究基金」の助成金を申請する。
- ・理事会からの提案として韓国社会福祉学会の会長を招待したい。自主企画シンポジウムに日韓交流部会を作ることを考えている（また今後3カ年ぐらいはこうした交流を行いたい）。

第5号議案 第49回大会（琉球大学他）について

- ・後援について一今まで日本社会福祉学会大会ではあまり後援を受けるという形をとっていなかった。今回は地域的な事情や沖縄の会員数が少ない等の理由により、後援という形をとっているが、これによって学会の活動等が左右されることはない。

- ・開催場所については会場確保の関係上、一日目は沖縄コンベンションホール、二日目は沖縄国際大学とする。

（テーマについての意見交換）

- ・日本がアジアにおいてどのような先導的役割を果たすか、あるいはアジアと沖縄における問題の類似性など、アジアの中で沖縄をとらえるということテーマとすべきである。
- ・アジアを取り上げるのは今後大いに行うべきであるが、学会の関心事項であるかどうかは疑問。沖縄（日本）の問題とアジアの問題は、基本的に異なり、両者をどうつなげるかが問題である。
- ・グローバルイゼーションという観点にたち、国境を超えた福祉を考えることが重要。その際、貧困と自立がキーワードとなるであろう。
- ・テーマ等については次回の理事会の検討事項とする。

第6号議案 入会審査について

- ・174人の入会申請者を審査の結果、承認した。（承認者の氏名は、3ページに掲載）

第7号議案 地方部会の活性化について

◎ 質疑

- （地方部会について）
- ・現在のブロックの区分は、活動に不便な面がある。（例えば、長野、新潟など）会議をもつのが困難、交通費等の経費がかかるなどの問題がある。県単位の補助を検討してはどうか。
- ・中国・四国は分けるのが望ましい。
- ・その他、ブロックの分け方については今後の検討事項とする。

第8号議案 その他

- ・会費滞納者について一會則にしたがい次回理事会で、その後の扱いを決定する。
- ・3年毎の名簿作成に相当の経費を要する。今後は会費値上げも検討事項となる。
- ・学会創設50周年を機に「学会の歩み」を残しておく必要がある。古川理事を中心に50周年事業として刊行準備を行う。

2000年度第1回理事会出席状況

役職名	氏名		役職名	氏名	
会 長	大橋 謙策	○	中四国担当理事	鈴木 勉	○
会長職務代行・関西担当理事	岡本 民夫	○	九州担当理事	保田井 進	○
総務担当理事	高橋 重宏	○	理 事	一番ヶ瀬 康子	×
研究担当理事	小田 兼三	○	理 事	右田 紀久恵	×
渉外担当理事	古川 孝順	×	理 事	岡本 崇一	×
機関誌担当理事	白澤 政和	○	理 事	京極 高宣	×
庶務担当理事	田端 光美	○	理 事	日代 国次郎	○
北海道担当理事	杉村 宏	○	理 事	三浦 文夫	×
東北担当理事	佐藤 嘉夫	○	理 事	宮田 和明	○
関東担当理事	山崎 美喜子	×	監 事	佐藤 進	○
中部担当理事	高島 進	○	監 事	中垣 昌美	×



新入会員 (174名) 2000年度第1回理事会承認

青木 葵代子 日本福祉大学大学院
阿部 喜美子 立正大学大学院
阿部 優美子 日本社会事業大学大学院
阿部 芳江 岐阜大学
天沼 香 東海女子大学
蘭 和子 東海女子大学
石井 和子 日本福祉大学大学院
石川 和穂 東京福祉大学
石川 満 日本福祉大学
石川 幸生 名古屋女子文化短期大学
石橋 カスヨ 和歌山県立医科大学看護短期大学部
磯野 博 中村学園静岡福祉医療専門学校
稲葉 美由紀 福岡県立大学
今井 朋美 東京福祉大学
今別府 もと子 北海道大学大学院
岩永 公成 東京都立大学大学院
宇都宮 福珠 日本福祉大学大学院
江口 直子 日本福祉大学大学院
江尻 行男 日本福祉大学大学院
遠藤 卓 国立療養所 新潟病院
大下 由美 県立広島女子大学
大城 安隆 沖縄国際大学
太田 真 弘前ホスピタリティエアカデミー
大坪 麻理 京都福祉専門学校
大森 正英 東海女子大学
大山 さく子 仙台大学
岡田 千秋 熊本学園大学大学院
岡田 千加夫 駒沢大学大学院
岡本 晴美 瀬戸内短期大学
小川 直樹 筑紫女学園大学
小川 敬之 九州保健福祉大学
小川 喜道 神奈川工科大学
小崎 浩信 東北福祉大学
尾島 万里 清泉女学院短期大学
小畑 和 駒沢大学
華 由美子 日本福祉大学大学院
魁生 榮里子 瀬戸内短期大学
角崎 ヌキ 立正大学大学院
原 絵里乃 仙台大学
金子 寿世 明治学院大学大学院
金田 千鶴 浅草寺福祉会館
株本 千鶴 東京都立大学
釜 禮子 金城大学
神谷 和孝 東海女子大学
亀山 光子 長崎純心大学
鴨志田 美幸 茨城キリスト教大学
川端 美佐子 秋葉学園
菊澤 佐江 淑徳大学
北村 前 立正大学
光 光子 長崎国際大学
木下 謙治 筑紫女学園大学
金 美美子 日本社会事業大学大学院
木村 敦子 広島文教女子大学
木村 典昭 トヨタ看護専門学校
葛谷 深昭 日本福祉大学大学院
園定 美香 福山市立女子短期大学
熊田 博喜 東洋大学大学院
倉本 義則 北海道障害者職業センター
黒田 裕 三重県立看護大学
桑田 寛子 敬友会グループホーム アミーユ南蔵王
小池 和幸 仙台大学
古賀 義 長崎純心大学短期大学部
小高 良友 東海女子大学
兒 好子 関西女子短期大学
小林 英義 会津大学短期大学部
小松 聖司 日本社会事業大学大学院
子安 崇雄 東海女子大学
齋藤 雅志 神戸家庭裁判所
堺 園子 早稲田大学
坂口 正期 東洋大学
坂田 雄和 西九州大学
佐藤 匡 (社福) 薫風会
佐藤 信 九州保健福祉大学
佐見 信和 厚生省
宿谷 和恵 立教大学大学院
志渡 いづみ 慶応義塾大学大学院
志 晃一郎 北海道医療大学
新保 一郎 福井県立病院リハビリテーション室
新保 祐元 東京成徳大学
鈴木 麻郁 東洋大学大学院
関 貴秋 日本社会事業大学大学院
曾田 津子 指宿浩然会病院
孫 じゅんぎゅ 東京福祉大学
高倉 義憲 国立身体障害者リハビリテーションセンター

勝也 大阪障害者職業能力開発校
高田 隆 育英短期大学
高田 祐介 明治学院大学大学院
高橋 慶子 金城大学
滝沢 真智子 (財) 安寿苑ローズヴィラ水戸
武石 康男 日本社会事業学校
内 映子 日本障害者雇用促進協会
竹内 亜紀 大阪市立大学大学院
大刀掛 亜紀 日本社会事業大学大学院
田中 利光二 平成福祉教育専門学校
田波 史紀 日本福祉大学大学院
丹波 林新史 立正大学大学院
張 雅人 日本福祉大学大学院
手嶋 康人 流通経済大学大学院
遠田 真世 東京都立大学大学院
遠山 貞一 東洋大学大学院
所 隆一 福島大学
戸田 敏雄 長崎国際大学
友池 直美 大阪市立大学大学院
友海 邦雄 東京福祉大学
中川 朱美 日本福祉大学大学院
中島 友和 同志社大学大学院
中根 明香 同志社大学大学院
仲野 真由美 日本福祉大学大学院
野村 英三 (社福) 法延会養護老人ホーム 静山荘
中村 雅文 西九州大学大学院
中村 文白 日本福祉大学
長尾 耕彦 北海道大学大学院
七尾 耕彦 西九州大学大学院
鍋谷 哲希 日本福祉大学大学院
新路 真典 東京大学大学院
西井 智 近畿福祉大学
津口 友紀子 日本福祉大学大学院
野口 有 城西国際大学福祉教育センター
萩 有 東洋大学大学院
橋本 崇耕 大阪商業大学
長谷中 宏二 大阪市西区在宅サービスセンター
島 幹 日本福祉大学大学院
林 芳治 立正大学大学院
林 央理 日本福祉大学大学院
原 佳央 杏林大学
原 田 勇彦 駒沢大学看護福祉専門学校
韓 仁愛 関西学院大学大学院
朴 美京 東海女子大学
平野 華 東京都立大学大学院
平山 尚 日本福祉大学
画 隆志 東京福祉大学
廣 嘉雄 筑波大学大学院
藤川 文朗 早稲田大学大学院
藤森 宮子 東京工業大学
藤 古居 華頂短期大学
保積 京子 金城大学
堀 功一 蒲生会 大和ホーム
本郷 真紀子 吉備国際大学
本郷 澄子 東京都立大学大学院
前田 秀和 日本福祉大学大学院
前田 泰弘 熊本学園大学大学院
松井 泰弘 東北福祉大学感性福祉研究所
松川 一弥 日本福祉大学大学院
松本 敏道 北海道医療大学
松山 清子 駒沢大学大学院
三浦 晴美 日本福祉大学大学院
三島 矢美 知的障害者通所更生施設こぶし園
三好 禎一郎 日本社会事業学校
向井 禎 日本福祉大学大学院
向井 枝美 浦添市社会福祉協議会
元村 智明 佛教大学大学院
森 和子 埼玉県所沢児童相談所
安本 裕子 日本社会事業大学大学院
柳 雄次 日本福祉大学大学院
山内 太郎 筑波大学
山崎 節子 北海道大学大学院
山下 幸子 日本福祉大学大学院
山田 裕史 大阪府立大学大学院
山和 純子 えるてるホーム在宅介護支援センター
山本 真悟 植草学園短期大学
楊 秀樹 相談室おおきな木
横山 澄和 (社福) 聖徳園あしや聖徳園
横山 泰和 日本福祉大学大学院
横山 裕 日本社会事業大学大学院
吉見 公章 九州保健福祉大学
吉見 育子 青森県立大学
若松 相学 日本福祉大学大学院
渡部 亜希子 筑紫女学園大学
渡部 智安 日本社会事業大学大学院
渡部 裕一 浅草寺福祉会館
渡部 裕一 立正大学大学院
駒沢大学大学院



2000年（第48回）全国大会日程と参加者へのお願い

[日本女子大学]

第1日 11月3日（金）（祝）

- 9:30 受付開始
- 10:00-11:40 自由研究発表（口頭発表、ポスター発表）／自主企画シンポジウム
- 11:40-12:30 休憩・昼食
- 12:30-13:30 学会年次総会
- 13:45-17:15 大会シンポジウム「21世紀の社会福祉：何に、どこまで、関わるのか」
- 17:45-19:45 懇親会

第2日 11月4日（土）

- 8:45 受付開始
- 9:00-10:40 自由研究発表（口頭発表、ポスター発表）／自主企画シンポジウム
- 11:00-12:30 記念講演 多田富雄氏（東京大学名誉教授）
「生命・個人・社会—生命科学から21世紀を展望する—」
- 12:30-13:30 休憩・昼食
- 13:30-15:10 自由研究発表（口頭発表、ポスター発表）／自主企画シンポジウム
- 15:20-17:25 自由研究発表（口頭発表）／自主企画シンポジウム

今大会では例年の大会と比べて若干変更させていただいております点、ご留意願いたい点は、以下のとおりです。

- 自由研究発表の**ポスター発表**につきましては、ポスター掲示時間を3時間とさせていただきました。2日目のポスター発表は午前と午後で入れ替え制となりますので、掲示時間帯にご注意下さい。また今大会より、ポスター発表においても、司会の進行の下に発表者による口頭の発表（5分）および質疑応答（5分）の時間を設けました。発表者およびポスター閲覧希望の方は、口頭による発表の時間をプログラムにてご確認ください。
 - 口頭発表**による自由研究発表は、3～5題の発表で1つの分科会を構成しました。1つの分科会は1人の司会者によって、発表および質疑応答の進行、各分科会の簡単なまとめ等が行われる予定になっております。なお会場校の校舎は手狭であり、余裕がある大きさの教室を十分な数だけ確保することが困難でした。したがって分科会によっては、希望された方全員が教室に入りきれないことが起こると思われまますのでご容赦下さい。
 - 2日目の多田富雄氏による記念講演は、日本女子大学学術研究交流事業との共催とさせていただきました。したがって、日本女子大学学生および附属校園の教職員、さらに一般の方々に入場無料で開放しておりますのでご承知下さい。
 - 今大会では、例年と異なり、2日目の17時30分近くまでプログラムが組まれております。これは、会場校の施設規模が限られたものであることからやむを得ないことですので、ご理解下さい。
 - 会場校最寄り駅の小田急線「読売ランド前」駅は、タクシー乗り場がありません。タクシーをご利用の際は、「向ヶ丘遊園」「生田（台数が少なくなります）」「新百合ヶ丘」の各駅で下車して下さい。
 - 会場となる校舎から、飲食店、コンビニエンスストアへは、徒歩で15分近くかかります。また1日目は、学生向けの食堂は一部のみ営業致しますが、**弁当の事前注文をおすすめします。**（1食分1,000円です。おにぎり、サンドイッチといった軽食は販売しますが数に限りがあります）。
- 弁当、懇親会、参加費の事前申込みは、10月20日までに振替えをお願いします。

[口座番号：00280-6-43223 名称：日本社会福祉学会2000年大会]

- 会場校校舎内は**全面禁煙**となっておりますことから、喫煙は校舎外に設けた喫煙場所に限らせていただきますのでご協力下さい。
- 会場校は女子校ですので、男性用トイレの数が充分ではありません。一部女性用トイレを男性用として使用いたしますので、案内・サイン等にご注意下さい。

学会事務局からのお願い……

本年より大会開催校での会員の年会費の納入受付をいたしません。年会費は郵便振替でお願いいたします。



理事担当事業報告

学会誌編集委員会通信

機関紙担当理事 白澤 政和

学会誌『社会福祉学』は、41巻1号より装いも新たに、サイズをB5判、表紙を絵柄入りのカラーとした。本文も、横2段組みで読みやすくした。

編集委員会では、こうした学会誌の外見について議論しているだけでなく、目下検討し、一部実行している2点について紹介する。

第1は、いかにレベルの高い論文を数多く掲載できるようにするかの検討である。

そのため、従来の投稿区分の「論説」と「研究ノート」を一本化し、「論文」に統合した。また、応募された論文については、できる限り掲載する方針で、掲載可能な論文については、査読委員が継続的に支援し掲載に導いていく査読方式に改めた。

さらに、本学会の特徴である研究者と実践者が会員であることを活かしていくうえで、「実践報告」「調査報告」「資料解題」を投稿区分に加えた。

こうした結果、レベルの高い学会誌となり、さらに投稿数が増えることになれば、現在は年2回の発行であるが、発行回数を増やしていくことも想定している。3800人の会員を有する本学会であれば、もう少し年間の発行回数を増やしてもよいのでは、といった議論もされている。

第2は、査読による掲載可否決定での透明性をいかに高めていくかについての議論である。

そのため、1論文につき2名の査読委員を依頼しているが、査読委員からの結果を基に掲載の可否を編集委員会で決定することとしている。そこで採否が決まらない場合は、第三の査読委員をたてて、決定することになっている。

また、掲載不可の場合も含め、すべての投稿者に対して査読委員からの査読コメントを返送することとしている。

なお、査読者間で掲載可否に関する評価の基準をできる限り一定になるよう検討しているが、現状では何

点かの評価項目を設定するに留まっている。現時点での査読者の「評価表」を、透明性の観点からも、開示しておく(別表1)。これは、「論文」についての掲載依頼の場合の評価表である。

編集委員会にとって、これら2つの課題は大変重要なことであり、学会誌の今後の発展に不可欠なことでありと認識している。そのため、会員の皆様からぜひこの2点について、ご意見や具体的なお提案をいただければと思います。

表1 投稿論文の評価表

I 項目別評価 (適切な項目に○をお付けください)		評価基準 A: 良 い B: 普 通 C: 不 適 切 非: 非 該 当			
1	執筆要綱に適合しているか	A	B	C	非
2	先行研究をふまえているか	A	B	C	非
3	研究目的は明確であるか	A	B	C	非
4	研究目的にたって研究方法は適切であるか	A	B	C	非
5	使用されている概念、用語は適切であるか	A	B	C	非
6	論理の展開に一貫性があるか	A	B	C	非
7	考察に新しい知見が含まれているか	A	B	C	非
8	調査の方法や分析方法は明確であるか	A	B	C	非
9	調査結果は明確であるか	A	B	C	非
10	文章表現は適切であるか	A	B	C	非
11	表題は論文の内容を適切に表現しているか	A	B	C	非
12	抄録の内容は適切であるか	A	B	C	非
13	社会福祉の理念・政策・実践との関連づけは明確であるか	A	B	C	非
14	倫理上の問題はないか	A	B	C	非
15	省略語、単位、数値は正確に表記されているか	A	B	C	非
16	図表は本文と照合して適切であるか	A	B	C	非
17	図表の体裁(タイトル、単位、形式)は整っているか	A	B	C	非
18	注、引用文献、資料は適切であるか	A	B	C	非

II 総合評価 (適切な項目に○をお付けください)	
A. 優れている	B. 論文として平均または平均水準以上
C. 平均水準に達していない	D. 論文として問題多い

III 掲載についての評価 (適切な項目に○をお付けください)	
A. 採 用	
B. 修正を条件に採用	
C. 不採用	

第18期日本学術会議が発足

渉外担当理事 古川 孝順

第18期日本学術会議の社会福祉・社会保障分野の会員については、先に本学会から大橋謙策会員を候補として届けていたが、社会福祉・社会保障関連関係の推薦人会議の席で会員として選出され、7月に任命された。7月26日には日本学術会議の総会が開催され、役員構成などが決定された。



ブロック

活動

各ブロックの活動をご紹介します

活動

2000年度 日本社会福祉学会関東部会 大会・シンポジウム

このたび関東部会では、2000年度の大会を開催する運びとなりました。大会当日は、特別記念講演会とシンポジウムを開催いたします。特別記念講演には、仲村優一先生をお招きして御講演いただきます。また、シンポジウムでは、社会福祉基礎構造改革の名のもとに、大規模な制度改革が進められている時代状況をふまえ、来る21世紀の社会福祉のあり方について、シンポジストの先生方、ならびに会場の皆様から多くの御提言をいただき、盛大な大会にしていきたいと存じます。

皆様の御参加を心よりお待ち申し上げます。

大会テーマ

「社会福祉基礎構造改革と21世紀への展望」

日時：2000年10月21日（土）13:00～17:30

会場：明治学院大学 白金校舎

参加費：1,000円／（非会員の学生のみ無料）

・プログラム

12:30 開場

13:00～

シンポジウム

司会：岡部 卓 先生（東京都立大学）

シンポジスト：網野武博 先生（上智大学）

：高橋五江 先生（淑徳大学）

：中野いくこ先生（国際医療福祉大学）

：八木原律子先生（明治学院大学）

コメンテーター：大山 博 先生（法政大学）

15:30～ 特別記念講演

講演者 仲村優一 先生

17:00 総会

17:30 閉会

〈大会についてのお問い合わせは下記まで〉

日本社会福祉学会 関東部会事務局

TEL・FAX 03-5421-5344

（明治学院大学 山崎美貴子研究室内）

九州部会第41回大会

大会テーマ

「基礎構造改革は社会福祉の責務を果たせるのか」
（仮題）

日時：2000年12月2日（土）

会場：筑紫女学院大学で開催予定。



基調講演、シンポジウム、個別研究発表を予定。

詳細は、近日、通信を発送予定。

会員の個別発表の申し込みをお待ちします。

〈大会についてのお問い合わせは下記まで〉

西九州大学岡田研究室、又は

筑紫女学院大学戸丸研究室。



ホームページ委員会からのお知らせ

会員の業績登録はホームページからお願いします。○昨年5月に当学会のホームページを公開してから1年半。ご利用回数もすでに1万回を超え、おなじみになってきたのではないかと思います。コンテンツ充実策として2つのデータベースを運用していますので、ご利用ください。

・1つは、機関紙『社会福祉学』の目次検索です。全巻の入力が完了しています。このデータベースは、福祉系大学や学部が発行する紀要の目次も入力されたわが国唯一の福祉系論文専門の総合データベースです。ご研究に活用していただきたいと思ひます。

・2つめは、会員の業績を登録したデータベースです。機関誌データベースが論文を単位としたものであるのに対し、こちらは会員を単位としたデータベースです。これまでの機関誌『社会福祉学』に会員の業績を掲載していたのを中止して、インターネットによる会員ご自身の入力に切り替えました。ふるってご利用ください。

○どちらのデータベースも、学会のホームページ <http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jssw/> からご利用いただけます。

ホームページ委員長 坂田 周一

◆※◆

ご 案 内

ソーシャルケアサービス従事者養成・研修研究協議会を 社会福祉教育方法・教材開発研究会との共催で開催

この研究協議会は、21世紀の少子・高齢社会に必要な人材の養成・研修の推進のあり方や課題となっていることを協議・解決することを通して、福祉マンパワーの質の向上に寄与することを目的として、日本社会事業学校連盟と日本学術会議 社会福祉・社会保障研究連絡委員会に登録する社会福祉系学会、社会福祉従事者の職能団体、社会福祉士及び介護福祉士養成に関わる団体等によって去る5月21日に組織されました。

9月15日の第2回会議では、代表の仲村優一先生から厚生省でもこれまでのシステムとしての施策整備から社会福祉の人材養成課題を重視する方向にきており、この研究協議会での検討が重要となるという挨拶があり、その後、社会福祉人材の養成、研修に関わる以下の9つの課題について議論されました。

- ① ソーシャルワーカーに求められる倫理綱領とそれに関する教育
- ② 生活モデルに即した問題発見・問題解決のためのアセスメントに関わる共通なアセスメントシートの開発と教育方法
- ③ フィールド実習における実習指導システムと教育機関との関わり

- ④ 社会福祉援助技術演習における事例の取り上げ方と事例研究の方法
- ⑤ 社会福祉士実習におけるケアワーク技術に関わる実習
- ⑥ 高校福祉科教員養成課程における介護技術実習と社会福祉士実習との関わり
- ⑦ 地域を基盤とした社会福祉総合実習のあり方と社会福祉援助技術の統合化
- ⑧ 「社会福祉士のための医学一般」、「社会福祉士のための社会学」等の科目における教育内容と教材
- ⑨ 社会福祉士国家試験科目のシラバスの検討と教材
これらの課題を整理して以下の4つのプロジェクトとしてメンバーが分担し、2001年3月末までに研究成果をまとめることを方針として決定しました。4つのプロジェクトは以下のとおりです。
 - A. 倫理綱領（上記課題①について）
 - B. 事例研究教材とアセスメントツールの開発（上記課題②④について）
 - C. 実習教育（上記課題③⑤⑥⑦について）
 - D. 社会福祉士国家試験科目の内容（上記課題⑧⑨について）
（書記 島添成美）

『Japanese Journal of Social Services No.2』の発行

昨年、英文論文の原稿を募集していましたが、英文誌の2号が刊行できました。なお本号も1号と同様、海外の関係大学・図書館、研究機関等に送付予定しています。

お申し込みは学会事務局まで（JJSS No.1も在庫あります）。ご入用の方はハガキ、FAX、Eメールにてお願いします。折返し、本と振込用紙を送ります。

また、2000年大会（会場 日本女子大学生田キャンパス・学会事務局受付にて）でも販売いたします。

日本社会福祉学会発行英文誌（JJSS）No.2 概要

2000年5月刊行／論文数19編／B5判／200頁

定価1,000円＋送料

JJSS No.1 定価1,000円＋送料

社会福祉学会発行「機関誌」「報告書」等 在庫の紹介

下記の1から3までの出版物をご希望の方は、事務局までお申し込みください。

1. 『社会福祉学』バックナンバー（ホームページに目次を掲載しています。ご活用ください）
 - ・16号（1975年）～19号（1978年）
 - ・25-1号～29-2号（ただし25-2号、26-1号、26-2号、27-2号、28-2号を除く）
 - ・30巻1号～39巻2号（ただし33巻1号を除く）
 以上すべて1,600円（送料共）
 - ・40巻1号～41巻1号 … 2,500円（送料共）
2. 『社会福祉における国際協力のあり方に関する研究』理論・実践編
1997年刊行／B5判／80頁／定価500円＋送料
3. 『社会福祉における国際協力のあり方に関する研究』基礎研究編
1994年刊行／B5判／80頁／定価500円＋送料
4. 『社会福祉の国際比較』阿部志郎・井岡勉編
定価5,250円 有斐閣（会員は割引あり）
直接書店（FAX 03-3262-8035）に申し込むか、大会会場で購入してください。



おたすね

下記の方は郵便物(会費請求書、学会誌、学会ニュース等)が返送されてきているため、連絡が取れていません。ご存じの方は、本人にご連絡くださるか事務局までご連絡ください。なお、Aの方は学会ニュース9号(1995年10月20日)および追加名簿(1996年10月)でもお知らせしています。

A 37名

- 井出 恵美子 第一かもめ学園
- 稲垣 貴彦 愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所
- 今津 真樹 東京都精神障害者家族会連合会
- 岩野 貴美 北星学園大学
- 山田 小聡 日本社会事業大学大学院
- 基田 郁志 国立身体障害者リハビリテーションセンター
- 小金 正志 東洋大学大学院
- 小林 龍蔵 東京都市心身障害者福祉センター
- 木 民雄 城南福祉医療協会 大田病院
- 佐々木 生和 淑徳短期大学
- 成馬 明玉 韓国釜山大学校社会科学部社会学部
- 相成 貞 東洋大学大学院
- 池田 京胡 聖十字福祉専門学校
- 千原 加奈代 仙台市医療センター 茂庭台豊齡ホーム
- 中 銀 日本女子大学
- 中 庄弘 第一法規出版
- 西 久美子 湘南学院
- 西 敏枝 大阪府立看護大学医療技術短期大学部
- 仁平 美隆 日本福祉大学
- 橋本 靖美 関西大学
- 藤本 信子 社会福祉法人全日本福祉会
- 七水 英道 静岡国立大学短期大学部
- 柳川 英道 日生病院 医療生活相談室
- 山口 聡子 淑徳大学 社会福祉学研究所
- 山崎 聡子 安田生命社会事業団
- 山 昭都 龍谷大学
- 山 香登 同志社大学大学院
- 見 岩見 沢児童相談所

B 97名

- 安部 能成 千歳県がんセンター
- 阿部 裕二 東北福祉大学
- 石 鳳子 同志社大学大学院
- 石 京子 葛野学院短期大学
- 石 輔子 吉備高原医療リハビリテーションセンター
- 伊藤 一和 キャンピタル国際専門学校
- 井川 紀彦 日本社会事業大学大学院
- 井上 益博 淑徳大学 社会学部
- 井谷 敏博 軽費老人ホーム 悠々の苑
- 岩井 道明 仙台家庭裁判所
- 岩本 希子 岩手県立大学 福祉部
- 橋本 重幸 同志社大学 中央福祉専門学校
- 橋本 喜子 駒沢大学大学院
- 橋本 綾子 尚朋大学
- 橋本 千代 同志社大学 社会学部
- 橋本 英夫 淑徳大学 社会学部
- 橋本 淳子 横濱市北部地域療育センター
- 橋本 香あ 京都府立大学 女子短期大学部
- 橋本 志直 横濱市総合リハビリテーションセンター
- 橋本 隆佳 松阪大学 女子短期大学部
- 橋本 三恵 東北福祉大学 大学院
- 橋本 美真 早稲田大学 大学院
- 橋本 慶子 同志社大学 大学院
- 佐賀 貴美子 佐賀大学

- 北川 博一行 厚生省社会・援護局 援護企画課
- 鬼頭 良美 淑徳大学 大学院
- 坂本 義三 大阪保護観察所
- 西原 三 中央育英学園 学部
- 栗原 三 佐賀大学 教育学部
- 森田 池田 関西学院大学 大学院
- 小島 和恭 郡山女子大学
- 小坂 夫美子 丘の上病院
- 小辻 美穂 京都教育大学 大学院
- 近藤 卓 美深育成園
- 藤 有美 東海大学 健康科学部 社会福祉学科
- 藤下 秀富 明治学院大学 大学院
- 坂本 真知子 日本医療福祉専門学校
- 木々 美知子 東京都練馬高等保育学院
- 佐藤 祐一 愛知県立看護大学
- 佐田 久美子 八王子平和の家
- 白田 久美子 日鋼記念病院 在宅介護センター
- 柳田 久美子 鴨門教育大学 大学院
- 柳田 久美子 大阪府立大学 医学部 庶務課
- 柳田 久美子 救世軍 小隊
- 柳田 久美子 淑徳大学 大学院
- 柳田 久美子 北大病院 総合診療部
- 柳田 久美子 博島老人クラブ 連合会
- 柳田 久美子 龍谷大学 大学院
- 柳田 久美子 障害者 自立生活 問題研究所
- 柳田 久美子 越川 記念病院
- 柳田 久美子 大阪府立大学 大学院
- 柳田 久美子 佛教大学 大学院
- 柳田 久美子 立正大学 大学院
- 柳田 久美子 専修大学 大学院
- 柳田 久美子 立命館大学 大学院
- 柳田 久美子 大阪府立 公衆衛生 研究所
- 柳田 久美子 山梨学院 短期大学
- 柳田 久美子 岡山県立 大学院
- 柳田 久美子 上智大学 大学院
- 柳田 久美子 横浜中央 児童相談所
- 柳田 久美子 佐野国際 情報短期大学
- 柳田 久美子 日本福祉 大学院
- 柳田 久美子 関西学院 大学 大学院
- 柳田 久美子 関西福祉 科学 大学院
- 柳田 久美子 立正大学 大学院
- 柳田 久美子 長野大学
- 柳田 久美子 合同社会 福祉士 事務所 ネクサス 派遣 相談員
- 柳田 久美子 熊取療育 園
- 柳田 久美子 産業医科 大学 短期大学 第3看護学
- 柳田 久美子 東京大学 大学院
- 柳田 久美子 東京女子 大学 大学院
- 柳田 久美子 東京学芸 大学 大学院
- 柳田 久美子 駒澤大学 大学院 短期大学
- 柳田 久美子 清泉女子 大学 短期大学
- 柳田 久美子 九州看護 福祉 大学
- 柳田 久美子 駒沢大学 大学院
- 柳田 久美子 新見女子 短期大学
- 柳田 久美子 新虎の門 病院
- 柳田 久美子 山口県立 大学
- 柳田 久美子 兵庫医科 大学 病院 医療 社会福祉部
- 柳田 久美子 山形大学 教育学部 政治学 研究室
- 柳田 久美子 京都大学 大学院
- 柳田 久美子 龍谷大学 大学院
- 柳田 久美子 滋賀県立 大学 看護 短期大学 部
- 柳田 久美子 東洋大学 大学院
- 柳田 久美子 都立梅ヶ 丘病院

事務局連絡

- お願い!...発送した郵便物が転居先不明で返送されてくる件数が増えています。転居された方は、すみやかに変更届を出してください。なお、ブロックは所属所在地で分けられています。所属先変更届もお忘れなくお願いいたします。ハガキ、FAX、Eメールにてお届けください。その際に、会員番号をお忘れなく記入してください。
- 次回の新入会員の審査...日本社会福祉学会大会期間中に理事会が開かれます(11月2,3,4日)。申込書は10月27日までに事務局へお送りください。
- 年会費...会費未納入が続きますと情報の提供ができない場合がありますのでご留意ください。

学会ニュース 編集後記

あまりの猛暑に、西日さす午後の事務所は冷房効果ならぬ温室みたいな一夏でした。本号は思わぬ小林さんの病気と編集担当は大会準備も重なり、発行予定が遅れたことをお詫びします。
(庶務担当理事・田端光美)

* *
 発行人 大橋 謙策 学会ニュース25号
 編集人 高橋 重宏
 発行日 2000年10月10日
 発行 日本社会福祉学会
 〒160-0008 東京都新宿区三栄町8
 森山ビル西館501
 TEL.03-3356-7824 FAX.03-3358-2204
 E-mail jsssw@ma3.justnet.ne.jp
 URL http://www.soc.nacsis.ac.jp/jssw/
 (印刷/南原孔版)
 * *